

世界同時不況・金融危機 なぜ、何が起きたのか



Economy

『激震経済』

読売新聞経済部／中央公論新社／1600 (税別)

円 高、株安、デフレ不況に財政赤字——。日本経済を取り巻く環境は厳しさを増し、有効な処方せんがないまま漂流する。その引き金を引いた「リーマン・ショック」以降、読売新聞に掲載された約2年間の経済記事をもとに、緊急出版されたのが本書だ。

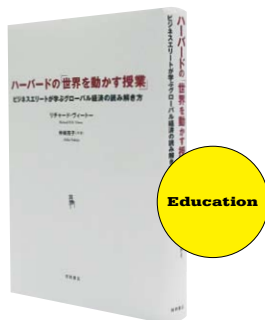
序章では、アメリカの住宅バブル崩壊に端を発した金融危機が、なぜあっという間に世界に波及したのか、その経路を解説、全体像をつかむことができる。

第1章と第2章は、「激震地」とその余震現場からの経済レポートだ。第1章は「日本編」で、トヨタ自動車のリコール問題と日本航空の破綻を取り上げ、世界経済の収縮に翻弄される日本企業の苦闘をリアルに伝えており、読みごたえがある。第2章の「リーマン・

ショックとGM破綻」では、リーマンを破綻に追い込んだ米政府、FRB、金融界の裏事情を解説、世界的な金融危機に追い込んだメカニズムを説く。最終章「どうなる世界と日本」では、ギリシャ・ショックや中国経済の行方、デフレと財政赤字に苦しむ日本経済など、国内外の問題を提起している。

複雑な経済・金融事情を、多角的な視点から緻密に検証、わかりやすく筋書き仕立てでまとめられているため、臨場感をもって読み進むことができる。読売新聞が5月に行った「緊急経済提言」や、ポール・クルーグマン氏など3人のノーベル経済学賞受賞者へのインタビュー記事も見逃せない。

歴史に大きな節目として刻まれた世界同時不況。その実態がマクロとミクロの視点で無駄なくわかる、「新聞社」ならではの力作。



Education

『ハーバードの「世界を動かす授業」ビジネスエリートが学ぶグローバル経済の読み解き方』

リチャード・ヴィートー・仲條亮子 (共著)
／徳間書店／1700円 (税別)

HBS人気教授の授業を紙上再現

名門ハーバード・ビジネス・スクール (HBS) で昨年最優秀教官賞を受賞、その名物講義を紙上公開した。注目すべき点は、翻訳本ではなく、日本オリジナル出版であること。ブルームバーグ情報テレビジョン社長の仲條亮子さんが、ハーバード留学中にもっとも感銘を受けたこの講義を書籍化しようと、徳間書店の会長に直談判して出版にこぎつけた。日本の成長戦略への提言もあり、日本の政治・経済リーダーにとっての必読書だろう。

親子で経済センスをつける

元マッキンゼーの共同経営者で、現在大阪府の橋下知事のブレーンとして知られる著書が書きおろした“子供と読む経済の絵本”。「お年玉はどうして増えないの？」から始まる、読みやすい1冊。子どもは生きていくのに必要な経済のセンスを、大人はビジネスセンスを学べる。長年、金融機関の経営改革エキスパートとして活躍した著者の「日本でしか通じないこと、そして世界のルールを知ることが大事」というメッセージは重い。



Economy

『あした・ゆたかに・なあれ——パパの休日の経済学』

大庫直樹／世界文化社／1200円 (税別)



Company

『東大卒でも赤字社員 中卒でも黒字社員 会社が捨てるのは、利益を出せない人』

香川晋平／経済界／800円 (税別)

本書を渡して反応がなければ……

「3人に1人は会社の利益を損なう赤字社員」と言い切る著書。どうすれば赤字社員を黒字社員に転換できるかを軽妙な語り口で解説。しかし人事本ではなく、根本にあるのは会計知識や考え方を通じて、経営を理解することの大切さだ。部下の指導に悩んでいるなら本書を手渡すのも一考かもしれない。それでも反応がない社員は残念ながら……。それくらい愛情のあるわかりやすさで“赤字社員”を叱ってくれる。